

## 第2章 海難の発生と海難原因

### 第1節 海難の発生

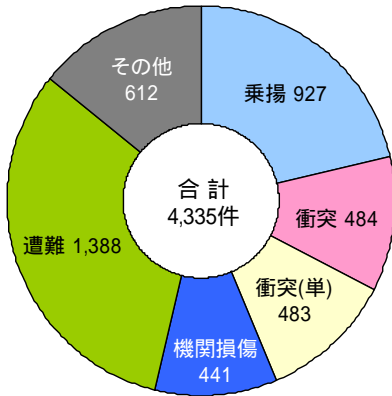
#### 1 海難の発生状況

平成18年中に発生し、理事官が認知した海難は、4,335件5,081隻で、これは前年の4,871件5,631隻と比べて、件数で536件(11%)減少し、隻数で550隻(10%)減少しています。

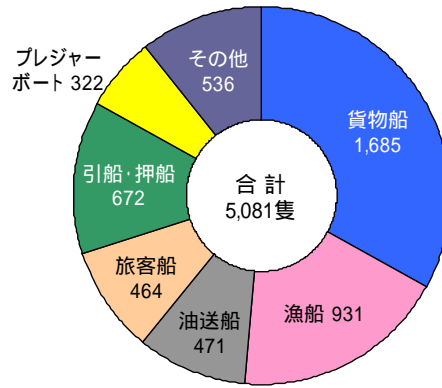
しかし、海難に伴う死亡・行方不明者及び負傷者(以下「死傷者等」という。)は、合計667人で、前年の551人と比べて116人(21%)増加しています。

死傷者等667人中、死亡・行方不明者数は202人、負傷者数は465人で、それぞれ前年の184人、367人と比べて、18人(10%)、98人(27%)の増加となっています。

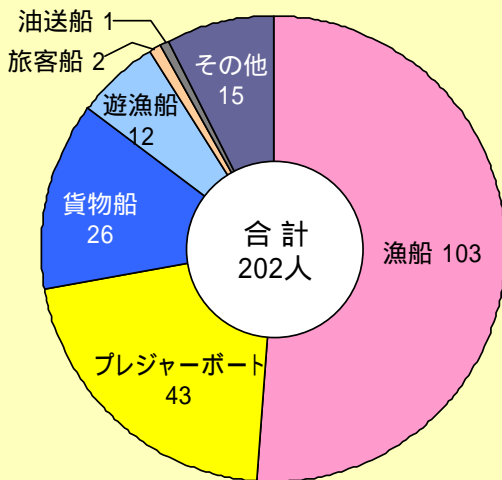
事件種類別発生件数



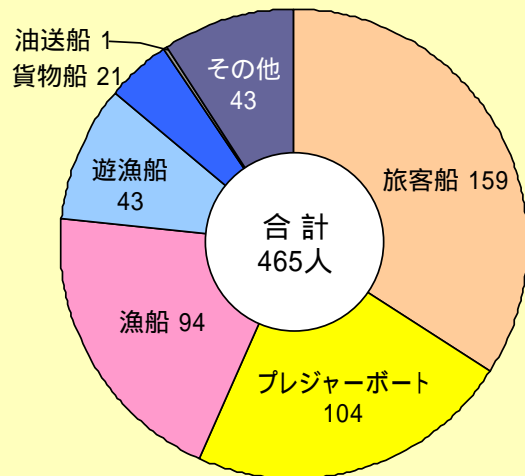
船種別発生隻数



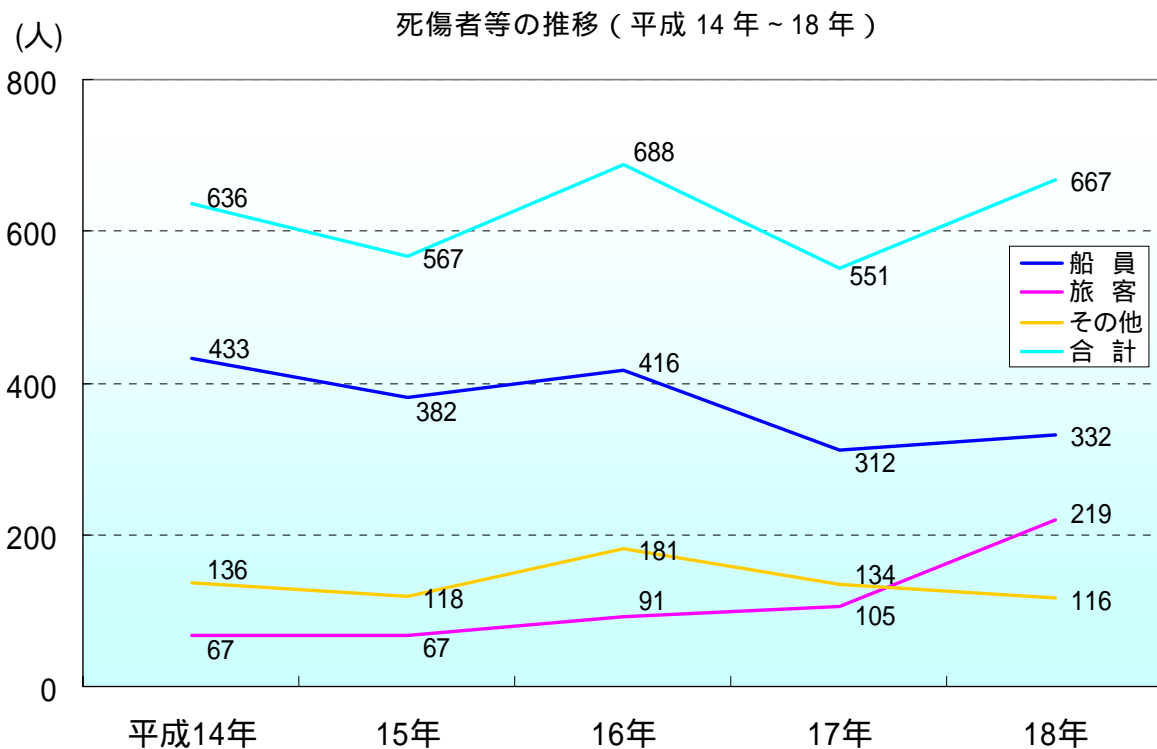
船種別死亡・行方不明者の状況



船種別負傷者の状況



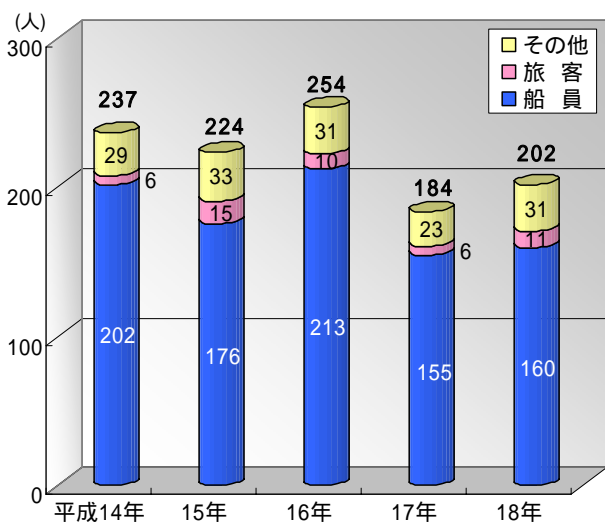
最近5年間の死傷者等の状況をみてみると、毎年増減はあるものの、全体としては横ばいの状況にありますが、旅客に限ってしてみると、増加傾向にあります。



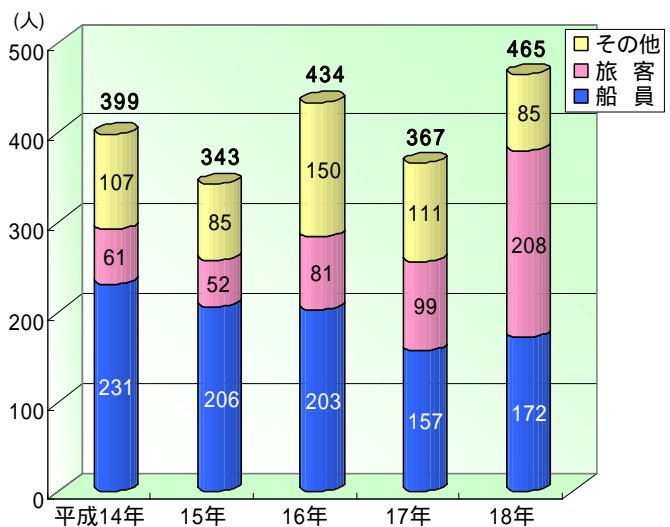
(注) 「その他」とは、荷役作業員等をいう。



死亡・行方不明者の推移



負傷者の推移

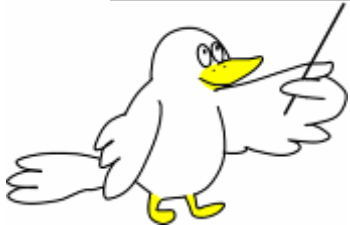


## 2 最近の主要な海難

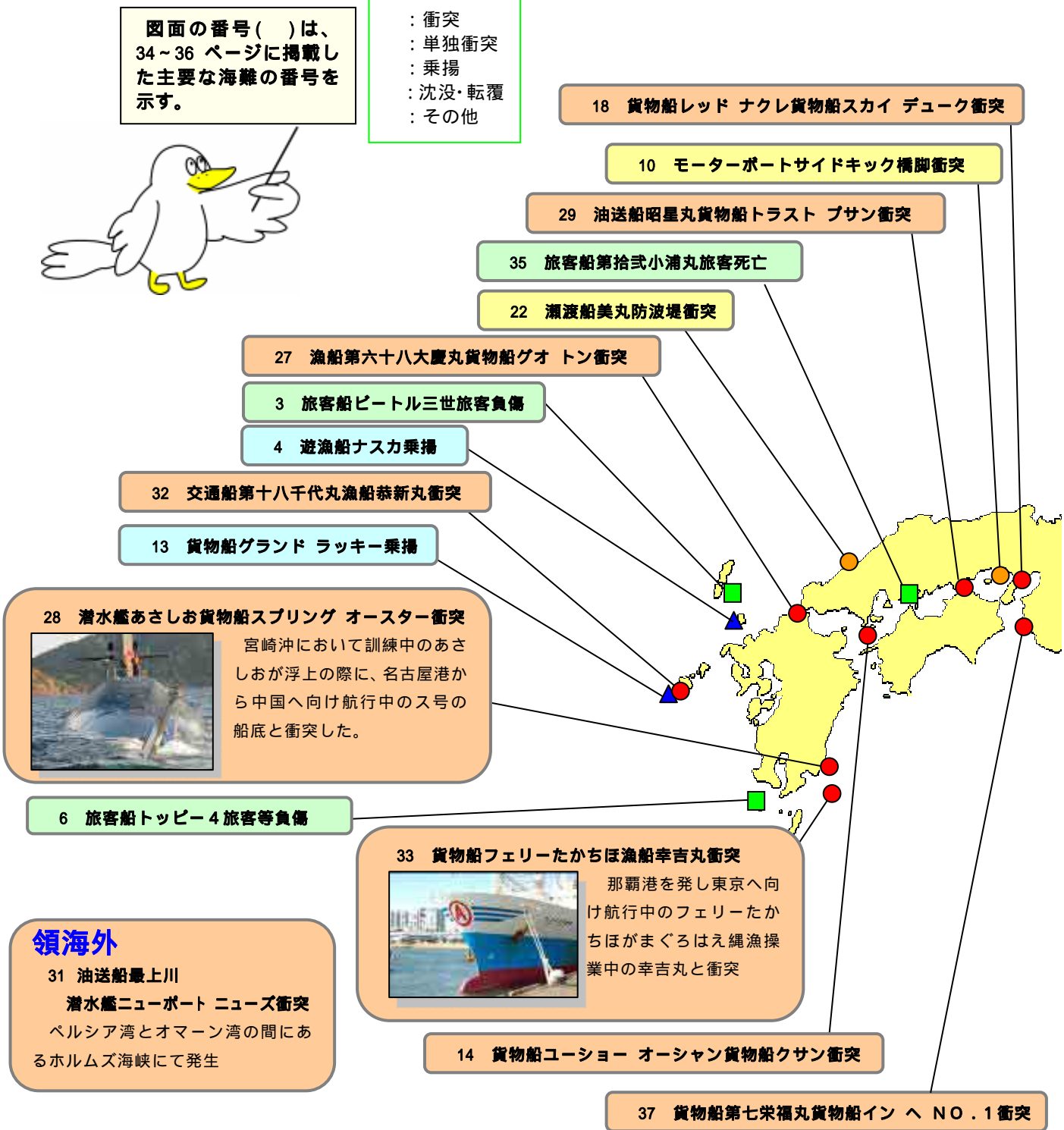
平成18年1月から19年5月までに発生した海難のうち、主要な海難として、次の基準に該当する39件の海難について、それぞれ発生地点を示しました。

主要な海難の基準	
5人以上の死亡・行方不明者が発生したもの 次の船舶が全損となったもの 旅客船、油送船、ケミカルタンカー、500トン以上の貨物船、100トン以上の漁船、 その他の特殊用途の100トン以上の船舶	旅客の死亡・行方不明者又は負傷者が発生したもの
爆発又は火災で船舶の損傷が重大なもの	社会的反響が大きかったもの

図面の番号( )は、34～36ページに掲載した主要な海難の番号を示す。

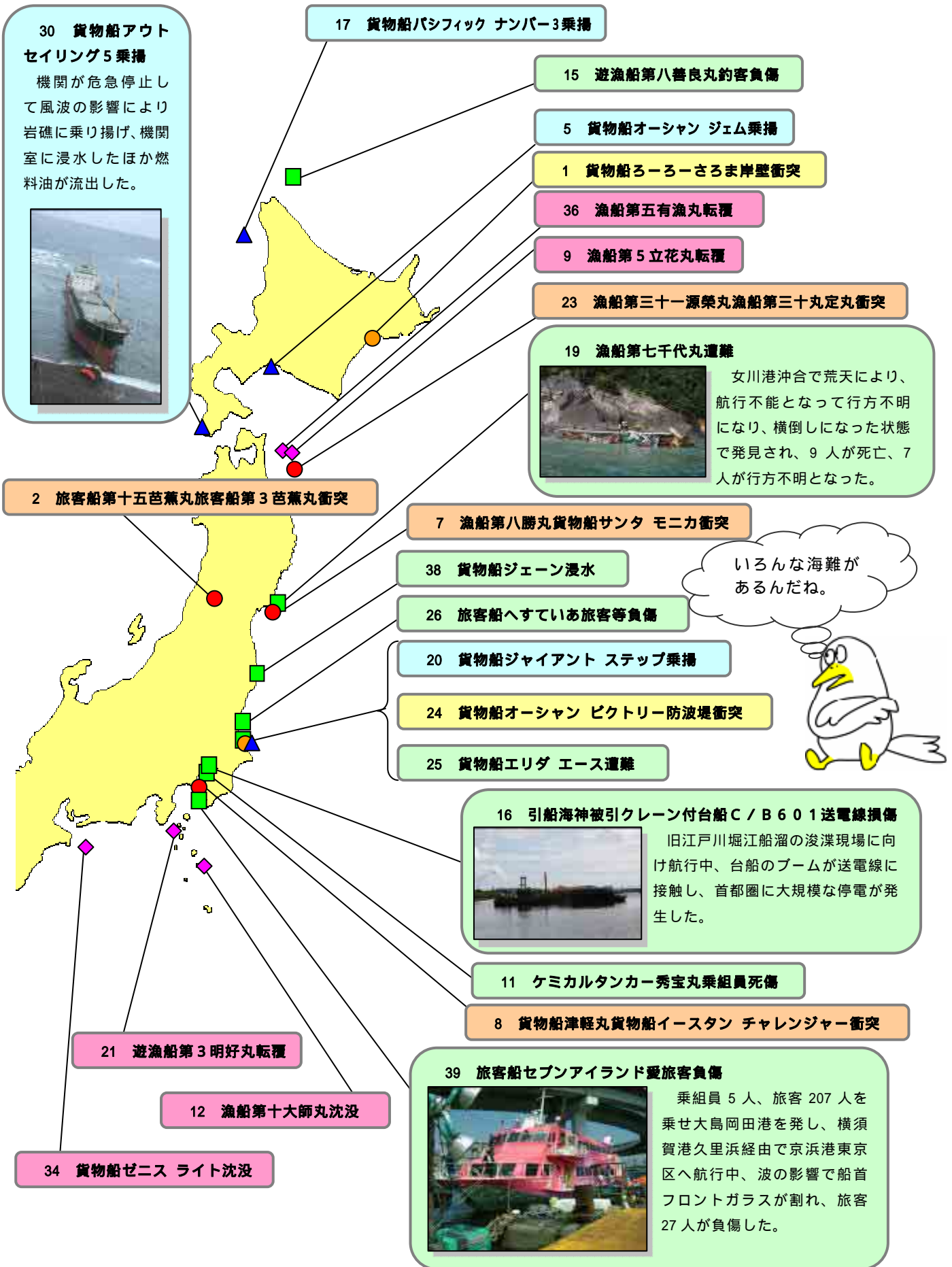


- : 衝突
- : 単独衝突
- : 乗揚
- : 沈没・転覆
- : その他



### 領海外

31 油送船最上川  
潜水艦ニューポート ニューズ衝突  
ペルシア湾とオマーン湾の間にあるホルムズ海峡にて発生



### 主要な海難の概要(平成18年1月から19年5月までに発生したもの)

No.・管轄	事件名・概要	
1 函館	<b>貨物船ろーろーさるま(8,349トン)岸壁衝突</b> 〔発生:平成18年2月17日 釧路港〕 釧路港を出港のため左回頭中、強風により圧流されて防波堤に衝突して浸水し、右舷側に大傾斜して船底が海底に擱座した。当時の天候は晴で、西の風、風力8であった。	
2 仙台	<b>旅客船第十五芭蕉丸(8.5トン)旅客船第3芭蕉丸(4.9トン)衝突</b> 〔発生:平成18年3月4日 山形県最上川〕 最上川の観光舟下り船である第十五芭蕉丸と旅客を下船させて回航中の第3芭蕉丸が衝突し、旅客17人が負傷した。	旅客負傷
3 門司	<b>旅客船ビートル三世(162トン)旅客負傷</b> 〔発生:平成18年3月5日 長崎県対馬沖〕 韓国プサン港から博多港へ向け翼走航行中、大型鯨類に接触した船首水中翼が落下して、船首船底が海面にあたり、シートベルトをしていなかった旅客が座席等から投げ出されて6人が負傷した。	旅客負傷
4 門司	<b>遊漁船ナスカ(7.9トン)乗揚</b> 〔発生:平成18年3月18日 長崎県壱岐沖〕 壱岐島北西方沖合で遊漁後、博多港に向け帰港中、船長が居眠りに陥り岩礁に乗り揚げ、乗組員1人、釣客6人が負傷した。	旅客負傷
5 函館	<b>貨物船オーシャン ジェム(ペリイズ籍、1,492トン)乗揚</b> 〔発生:平成18年3月29日 苫小牧港〕 苫小牧港入港準備のため錨泊しようとして航行中、強風と波浪により圧流され、人工リーフに乗り揚げ、船底に破口を生じた。当時の天候は雨、南東の風、風力9で、波高が約4メートルであった。	外国船関連
6 門司	<b>旅客船トッピー4(281.04トン)旅客等負傷</b> 〔発生:平成18年4月9日 鹿児島県佐多岬沖〕 種子島西之表港を発し、指宿港を經由し鹿児島港に向け佐多岬西方沖を翼走航行中、海中の障害物と船尾水中翼が接触し、飛ばされるなどして、乗組員6人、旅客99人が負傷した。	旅客負傷
7 仙台	<b>漁船第八勝丸(9.7トン)貨物船サンタ モニカ(英国籍、43,213トン)衝突</b> 〔発生:平成18年4月10日 宮城県牡鹿半島沖〕 宮城県大須漁港を発し漁場に向かう第八勝丸と、仙台塩釜港仙台区を発し米国オークランド港に向かうサ号が衝突し、第八勝丸が転覆、乗組員1人が行方不明となった。	外国船関連
8 横浜	<b>貨物船津軽丸(498トン)貨物船イースタン チャレンジャー(フィリピン籍、6,182トン)衝突</b> 〔発生:平成18年4月13日 東京湾口〕 千葉港から苫小牧港に向け航行中の津軽丸と、大阪港から京浜港に向け航行中のイ号が衝突し、イ号が沈没し、船舶は全損となった。	外国船関連
9 仙台	<b>漁船第五立花丸(14.98トン)転覆</b> 〔発生:平成18年4月21日 青森県三沢沖〕 回収した漁具を船尾甲板のみに積載したことから船尾トリムが増大し、船尾甲板の排水口から大量の海水が浸入して復原力を喪失して転覆、間もなく沈没し、乗組員2人が行方不明となり、のち死亡認定された。	
10 神戸	<b>モーターボートサイドキック(6.17メートル)橋脚衝突</b> 〔発生:平成18年5月3日 東播磨港〕 東播磨港の水路において、ウェイボードを引いて遊走中、ウェイボーダーの状況に気をとられ、二見大橋北側橋脚に衝突し、乗組員1人、同乗者2人が負傷した。	
11 横浜	<b>ケミカルタンカー秀宝丸(263トン)乗組員死傷</b> 〔発生:平成18年5月22日 東京湾羽田沖〕 千葉港から京浜港へ向け回航中、乗組員が高濃度のベンゼン蒸気が残る貨物油タンクに入り、急性ベンゼン中毒に陥って乗組員3人が死亡、1人が負傷した。	
12 横浜	<b>漁船第十大師丸(327トン)沈没</b> 〔発生:平成18年5月25日 伊豆諸島御蔵島沖〕 八丈島南南西の漁場から漁獲物約50トンを積載し、水揚げのため千葉県銚子港に向け航行中、船首より大波を数回受け左舷側に傾斜した後沈没し、船舶は全損、乗組員4人が負傷した。	
13 長崎	<b>貨物船グランド ラッキー(カンボジア籍、1,144トン)乗揚</b> 〔発生:平成18年6月8日 長崎県富江湾〕 鹿児島県志布志港から韓国ピョンテク港へ向かう途中、長崎県福江島の富江湾で荒天避泊するために同湾湾口南側海域を北上中、浅瀬に乗り揚げ、船舶は全損、乗組員1人が負傷した。	外国船関連
14 広島	<b>貨物船ユーショー オーシャン(パナマ籍、2,524トン)貨物船クサン(韓国籍、1,972トン)衝突</b> 〔発生:平成18年7月15日 伊予灘〕 水島港から香港に向け航行中のユ号と、韓国プサン港から大阪港堺区北区に向け航行中のク号が濃霧の中衝突し、ク号が沈没し、船舶は全損、燃料油が流出した。	外国船関連

No.・管轄	事件名・概要	
15 函館	<b>遊漁船第八善良丸釣客負傷</b> 〔発生:平成18年8月6日 北海道宗谷沖〕 北海道浜志別港を出港し沖合で釣りをしていたが、海上模様悪化のため帰港することとしたが、船首部に受けた波浪の衝撃により船首部甲板上の釣客2人が負傷した。	旅客負傷
16 横浜	<b>引船海神(9.5メートル)被引クレーン付台船C/B601(36メートル)送電線損傷</b> 〔発生:平成18年8月14日 千葉県旧江戸川〕 京浜港東京区の貯木場から旧江戸川堀江船溜の浚渫現場に向け航行中、台船のブームが送電線に接触し、首都圏に大規模な停電を引き起こした。	
17 函館	<b>貨物船バシフィック ナンバー3(カンボジア籍、220トン)乗揚</b> 〔発生:平成18年8月31日 北海道礼文島沖〕 ロシアサハリン北東方の洋上で、タラバガニ24トン等を積載し、韓国トンヘ港に向け航行中、浅瀬に乗り揚げ、船舶は全損となり、油が流出し、漁業被害が発生した。	外国船関連
18 神戸	<b>貨物船レッド ナクレ(シンガポール籍、38,364トン)貨物船スカイ デューク(韓国籍、3,992トン)衝突</b> 〔発生:平成18年9月8日 神戸港〕 東播磨港を発し、神戸港へ向かうため、水先人がきょう導して神戸中央航路を北上中のレ号と、神戸港から大阪港へ向かうため神戸中央航路に向けて進行中のス号が衝突し、レ号は左舷甲板部に破口を生じバラスタタンクに浸水、ス号は船首部を圧壊した。	外国船関連
19 仙台	<b>漁船第七千代丸(198トン)遭難</b> 〔発生:平成18年10月6日 宮城県女川港沖〕 岩手県宮古港東方の漁場から女川港へ向け航行中、女川港沖合で荒天により、航行不能になって行方不明になり、横倒しになった状態で発見され、乗組員9人が死亡、7人が行方不明となった。当時の天候は雨、北東の風、風力11、波高5ないし7メートルであった。	
20 横浜	<b>貨物船ジャイアント ステップ(パナマ籍、98,587トン)乗揚</b> 〔発生:平成18年10月6日 鹿島港沖〕 着岸のため鹿島港沖で待機中、低気圧による風が強まり沖合へ移動していたところ、強風に圧流されて乗り揚げ、船舶は全損、乗組員8人が死亡、2人が行方不明、2人が負傷となった。当時の天候は雨、北北東の風、風力12であった。	外国船関連
21 横浜	<b>遊漁船第3明好丸(16トン)転覆</b> 〔発生:平成18年10月8日 静岡県下田沖〕 下田港を出港し神津島沖合の釣り場に向かう途中、高波を受けて転覆し、釣客2人が死亡、5人が行方不明となった。当時の天候は晴、西の風、風力6、波高は3ないし4メートルであった。	旅客死亡等
22 広島	<b>瀬渡船美丸(4.8トン)防波堤衝突</b> 〔発生:平成18年10月14日 島根県浜田港〕 浜田港を発し、浜田市津摩町沖合の釣り場に向けて同港を出航中、防波堤に衝突し、釣客4人が負傷した。	旅客負傷
23 仙台	<b>漁船第三十一源榮丸(160トン)漁船第三十丸定丸(143トン)衝突</b> 〔発生:平成18年10月17日 青森県八戸沖〕 操業中の源榮丸と漁場移動中の丸定丸が衝突し、源榮丸が沈没、乗組員1人が死亡し、1人が負傷した。	
24 横浜	<b>貨物船オーシャン ビクトリー(中国籍、88,853トン)防波堤衝突</b> 〔発生:平成18年10月24日 鹿島港〕 鹿島港にて荷役中、低気圧の接近に伴い天候が悪化したため離岸し、鹿島港外へと退避の途中、強い風波に圧流されて鹿島港南防波堤に衝突した。その後の荒天により船体が二つに折損した。当時の天候は雨、北の風、風力10であった。	外国船関連
25 横浜	<b>貨物船エリダ エース(パナマ籍、85,350トン)遭難</b> 〔発生:平成18年10月24日 鹿島港〕 鹿島港に着岸中、低気圧の接近に伴う強風のため荷役が行えず、鹿島港外へ退避のため港内の水路に沿って北上中、防波堤を越えた波浪を右舷船首に受け、舵効が得られず操船が困難な状況に陥り、乗り揚げた。当時の天候は雨、北の風、風力10であった。	外国船関連
26 横浜	<b>旅客船へすていあ(13,539トン)旅客等負傷</b> 〔発生:平成18年10月24日 茨城県大洗港沖〕 苫小牧港から大洗港へ向け航行中、荒天のため鹿島灘沖に避難した際、横波を受けて船体が大きく傾き、乗組員1人、旅客4人が負傷し、数十台の車両が損傷した。	旅客負傷
27 門司	<b>漁船第六十八大慶丸(296トン)貨物船グオ トン(カンボジア籍、1,498トン)衝突</b> 〔発生:平成18年11月17日 関門海峡〕 中国煙台を発し関門港下関区へ向け航行中の大慶丸と徳島小松島港を発し、中国煙台へ向かうグ号が関門海峡を航行中、衝突し、グ号が沈没して、船舶は全損、乗組員3人が死亡した。	外国船関連

No.・管轄	事件名・概要	
28 門司	<b>潜水艦あさしお(排水量2,900トン)貨物船スプリング オースター</b> (パナマ籍、4,160トン)衝突〔発生:平成18年11月21日 宮崎沖〕 宮崎沖において訓練中のあさしおが浮上の際に、名古屋港から中国寧波へ向け航行中のス号の船底と衝突した。	外国船関連
29 広島	<b>油送船昭星丸(153トン)貨物船トラスト ブサン(韓国籍、2,460トン)衝突</b> 〔発生:平成18年11月28日 香川県豊島沖〕 水島港から神戸港に向け航行中の昭星丸と、兵庫県相生港から福山港に向け航行中のト号が衝突し、昭星丸は左舷後部の破口から浸水し、積荷の重油が大量に流出した。	外国船関連
30 函館	<b>貨物船アウトセイリング5(パナマ籍、1,972トン)乗揚</b> 〔発生:平成18年12月6日 北海道松前沖〕 八戸港から北海道石狩湾港に向け航行中、機関が危急停止して風波の影響により岩礁に乗り揚げ、機関室に浸水し、燃料油が流出した。	外国船関連
31 神戸	<b>油送船最上川(160,229トン)</b> <b>潜水艦ニューポート ニューズ(米国海軍、トン数不詳)衝突</b> 〔発生:平成19年1月9日 ホルムズ海峡〕 サウジアラビアラスタヌス港からシンガポール港に向け航行中の最上川は、二号と衝突し、最上川の後部船底バラストタンク付近が損傷し、浸水した。	外国船関連
32 長崎	<b>交通船第十八千代丸(11トン)漁船恭新丸(4.9トン)衝突</b> 〔発生:平成19年1月25日 長崎県福江港沖〕 工事作業員を搬送のため福江港から奈留漁港へ航行中の千代丸が、漁を終えて福江港へ帰港中の恭新丸と衝突し、千代丸の乗組員1人、作業員3人、恭新丸の乗組員3人の計7人が負傷した。	旅客負傷
33 門司	<b>貨物船フェリーたかちほ(3,891トン)漁船幸吉丸(9.1トン)衝突</b> 〔発生:平成19年2月9日 鹿児島県種子島沖〕 那覇港を発し京浜港東京区へ向け航行中のフェリーたかちほが、まぐろはえ縄漁作業中の幸吉丸と衝突し、フェリーたかちほは衝突に気づかず航行、幸吉丸は転覆した。	
34 横浜	<b>貨物船ゼニス ライト(韓国籍、2,016トン)沈没</b> 〔発生:平成19年2月14日 三重県大王崎沖〕 スチール3,000トンを積載し、木更津港を発し、韓国ポハン港に向け航行中、志摩市大王崎沖において船内に浸水し、沈没して乗組員3人死亡、6人行方不明となった。	外国船関連
35 広島	<b>旅客船第拾貳小浦丸(125トン)旅客死亡</b> 〔発生:平成19年2月15日 尾道系崎港〕 フェリー棧橋で車両搭載作業中、突然後進がかかり離棧し、乗船中の車両が海に転落し、車両に乗車していた旅客2人のうち、1人が死亡した。	旅客死亡
36 仙台	<b>漁船第五有漁丸(4.48トン)転覆</b> 〔発生:平成19年3月17日 青森県三沢港沖〕 三沢港から出漁中、転覆状態で発見され、船体は全損、乗組員1人が死亡し、2人が行方不明となった。	
37 神戸	<b>貨物船第七栄福丸(313トン)貨物船インヘ NO.1</b> (カンボジア籍、1,208トン)衝突 〔発生:平成19年4月7日 和歌山県江須崎沖〕 衣浦港から和歌山下津港へ向けて航行中の栄福丸と中国天津から名古屋港へ向けて航行中のイ号が衝突し、栄福丸は船首に破口を生じ、船舶は全損、乗組員1人が行方不明となった。	外国船関連
38 仙台	<b>貨物船ジェーン(セントビンセント及びグレナディーン諸島籍、4,643トン)浸水</b> 〔発生:平成19年4月17日 福島県鶴ノ尾崎沖〕 ロシアサハリンから相馬港へ航行中、機関室に破孔か亀裂が生じ、報告を受けた船長が最寄りの砂浜に任意座礁し、油が流出した。	外国船関連
39 横浜	<b>旅客船セブンアイランド愛(279.56トン)旅客負傷</b> 〔発生:19年5月19日 神奈川県城ヶ島沖〕 大島岡田港から横須賀港久里浜を經由して京浜港東京区へ向け航行中、波の影響で船首部フロントガラスが破損し、旅客27人が負傷した。当時の天候は晴、南西の風10ないし15メートル、波高2.5メートルであった。	旅客負傷

## 海難原因を究明するため鑑定を実施しています

理事官は、海難を調査する方法の一つとして、鑑定人に鑑定をさせることができるよう定められており、よりの確な原因究明を行うため、専門家による鑑定を積極的に活用しています。

### 遊漁船第3明好丸転覆事件

本件は、平成18年10月に海上暴風警報が発表された状況下、釣り客を乗せて航行中の第3明好丸(16ト)が転覆したもので、釣り客のうち2人が死亡し、5人が行方不明となりました。

本件では、第3明好丸の行った改造の運動性能(特に追波中における波乗りの発生しやすさ)に対する影響を明らかにする必要があるとし、鑑定を行いました。

(平成19年3月26日審判開始申立て)



第3明好丸の船体検査

### 貨物船エリダ エース遭難事件

本件は、平成18年10月に鹿島港において、工号(パナマ船籍、85,350ト)が、港外に向かって航行中、低気圧に伴う強風により操船不能に陥って乗り揚げたもので、乗組員は全員救助されたものの、船体は左舷に約10度傾斜、船首及び左舷バラストタンクに浸水しました。

本件では、当時、工号に働いた外力(風波による力等)を明らかにする必要があるとし、鑑定を行いました。(平成19年3月28日審判開始申立て)



瀬取り中の工号